

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成21年4月解析分)

1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成21年3月分(平成21年3月2日～3月29日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	3,531	7.68	12.90	↓	10	百日咳	20	0.07	0.04	↑
2	RSウイルス感染症	41	0.14	0.22	↓	11	ヘルパンギーナ	1	0.00	0.07	
3	咽頭結膜熱	70	0.24	0.39	→	12	流行性耳下腺炎	91	0.32	0.79	↗
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	593	2.06	1.51	↗	13	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.02	
5	感染性胃腸炎	2,132	7.40	10.75	→	14	流行性角結膜炎	84	1.11	1.21	↗
6	水痘	445	1.55	1.56	→	15	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.01	
7	手足口病	3	0.01	0.16		16	無菌性髄膜炎	2	0.02	0.04	
8	伝染性紅斑	50	0.17	0.22	→	17	マイコプラズマ肺炎	19	0.23	0.23	↗
9	突発性発しん	138	0.48	0.54	→	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成21年3月分(3月1日～3月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	50	2.17	2.21	↓	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	142	6.76	5.38	↗
20	性器ヘルペスウイルス感染症	17	0.74	0.59	↗	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	18	0.86	1.74	↓
21	尖圭コンジローマ	15	0.65	0.52	↗	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	2	0.10	0.25	
22	淋菌感染症	17	0.74	0.62	→						

「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)
報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

急増疾患 百日咳 (10件 20件)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について,県内178の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	19～22	15～18, 23～25	
定点数	43	72	19	23	21	178

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	47	結核〔広島市保健所(18)、福山市保健所(8)、呉市保健所(4)、呉地域保健所(2)、東広島地域保健所(3)、尾三地域保健所(3)、福山地域保健所(3)、備北地域保健所(6)〕
三類	7	腸管出血性大腸菌感染症(O157(5)(広島市保健所(3)、福山市保健所(1)、尾三地域保健所(1)))、(O26(2)芸北地域保健所)
四類	2	レジオネラ症〔呉市保健所、尾三地域保健所〕
五類全数	11	後天性免疫不全症候群(5)(広島市保健所)、アメーバ赤痢(2)(広島市保健所、福山市保健所) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(2)(広島市保健所、広島地域保健所) 急性脳炎(1)(広島市保健所)、ウイルス性肝炎(B型)(1)(福山市保健所)

3 一般情報

海外で注意すべき感染症について

4月26日から5月6日の大型連休中に海外に渡航される方は、健康で快適に旅行し帰国するためには、次表にあるような感染症に対する注意が必要です。

主な感染源	主な感染症	主な発生地域	主な症状	予防接種	予防策
食べ物	A型肝炎	発展途上地域	発熱、倦怠感、黄疸		十分加熱された食べ物を摂る。生水は飲まない。
	赤痢		発熱、下痢、激しい腹痛		
	コレラ		大量の水様便、おう吐、脱水症状		
	腸チフス		持続する高熱、倦怠感、比較的徐脈		
蚊の吸血	マラリア	熱帯亜熱帯地域	周期的高熱、悪寒、発汗		夜間の外出を控える。虫除けローションの利用、長袖・長ズボンの着用
	デング熱	北アメリカ	高熱、目の奥の痛み、筋肉・関節痛		虫除けローションの利用、室内での香取線香の使用など
	ウエストナイル熱		発熱、頭痛、筋肉痛、倦怠感		虫除けローションの利用、長袖・長ズボンの着用
動物	狂犬病	世界各地	発熱、頭痛、おう吐、倦怠感		犬や野生動物との接触を避ける。
	鳥インフルエンザ	南北アメリカを除く世界各地	発熱、頭痛、筋肉痛、その他風邪様症状		鳥類との接触を避ける。手洗い、うがいの励行
その他	寄生虫症	世界各地			衛生的な食堂での食事 手洗いの励行

特に海外で注意が必要な感染症については、次のとおりです。

(1) 鳥インフルエンザ

H5N1の鳥インフルエンザの鳥での流行が広がっています。平成15年末以来、東南アジアからユーラシア大陸、アフリカ大陸と世界的に広がり、鳥から人への感染も報告されています。感染した人の多くは、感染した鳥との濃厚な接触があります。海外では、生きた鳥が売られている市場や養鶏場にむやみに近寄らないようにしましょう。また、手洗いやうがいの励行を心がけましょう。

鳥から人への感染が報告されている国へ旅行され鳥と接触された方で、帰国後10日以内に38 以上の発熱と呼吸器症状が現れた場合は、医療機関にかかる前にお近くの保健所に相談してください。

人への感染が報告されている国 (15カ国、平成21年4月8日現在)

インドネシア、中国、ベトナム、タイ、カンボジア、ラオス、イラク、トルコ、アゼルバイジャン、エジプト、ジブチ、ナイジェリア、ミャンマー、パキスタン、バングラデシュ

(2) 狂犬病

狂犬病は日本やオーストラリアなどの一部の国や地域を除いて、世界中で発生している感染症です。平成18年には、フィリピンで犬にかまれ、帰国した男性が狂犬病を発症し、死亡する事例がありました。狂犬病が発生している国や地域で、犬やその他の野生動物(哺乳類)に引っ掻かれたり、咬まれたりした場合は、速やかに医療機関に受診してください。